

武蔵野の雑木林を未来へつなぐ

—森の「若返り」がもたらしたものの—

NPO法人市民まちづくり会議・むさしの

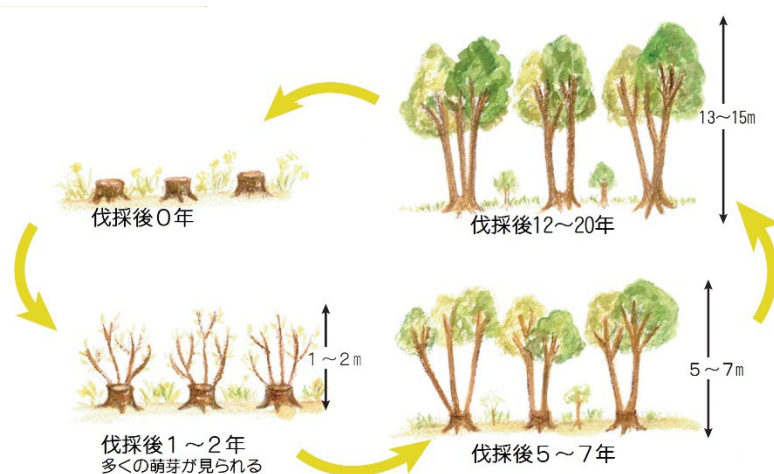
(協力：武蔵野の森を育てる会)

森(雑木林)の若返りが進んでいます

境山野緑地には、武蔵野の雑木林として育てることを目標に、2005年に市立第二小学校の子どもたちも参加して植樹した林（通称:二小ゾーン、約420㎡）があります。雑木林の保全手法の検証のため、武蔵野市でも市と武蔵野の森を育てる会の協働により、2019年2月にこの森を伐採し、若返りを試みています。

1. 持続的な雑木林のお手入れ

昔、雑木林の木は定期的(12～20年ごと)に燃料として伐採され、そのあと切株から出る萌芽を育てるという循環(萌芽更新)で維持されていました。萌芽が育つためには十分な光が必要なため、あらかじめ決めた範囲の木をすべて伐採していました。毎年場所を変えて順番に伐っていたので、さまざまな樹齢の区域がモザイク状になっていました。その結果生まれる多様な環境に適応して、さまざまな生き物が生息していたのです



萌芽更新のサイクル（環境省『里地里山保全再生計画作成の手引き』（平成20年）より）

2. 武蔵野市における森の若返りの試行

武蔵野市でも、こうした方法にならって森の若返りの試行を進めています。二小ゾーンでは、切株からの萌芽が大きく育ち、伐採後の風景が変化してきました。

- 2019年2月の伐採直後から萌芽が出て、ぐんぐん成長しています。



5月3日
可愛い萌芽



5月18日
ニョキニョキ



6月18日
ボーボー



2021年8月
8m超え！

- 樹木の更新によって風景が変化しています。



2018年7月
伐採前



2019年2月
伐採直後



2021年8月
伐採2年半後

立派な林！



ウラナミアカシジミ

雑木林に多く、幼虫はクヌギ、コナラなどを食草とします。萌芽更新（前述）で維持していた時代は、雑木林には若い樹が多かったため、新芽を好んで食べる本種が多く生息していました。今、森の若返りによって、境山野緑地にも戻ってきたのです。

3. 若返った森にやってきた生き物たち

森の若返りで明るく開けた場所ができ、眠っていた草花がよみがえって植物の種類が増えたため、境山野緑地全体に新しくいろいろな生き物がやってきました！いずれも雑木林を好む生き物たちです。

更新後に新しく境山野緑地で観察された生き物は67種（内訳は次頁）いました。その内、23種は東京都のレッドリストに掲載されています（**R** の記号）。下の写真は厳選18種です。全て境山野緑地で撮影しました。





ヒナバッタ



ショウリョウバッタモドキ



サトクダマキモドキ



ヒゲブトハナムグリ



クロカナブン



キスジトラカミキリ

【更新後に新しく境山野緑地で観察された生き物（67 種）の内訳】

野鳥類…10種、チョウ類…15種、トンボ類…14種、甲虫類…12種、バッタ類…8種、ハチ類・ガ類…8種（内東京都レッドリスト（観察時点）：23種）

4. 今後に向けて

更新地の樹木はグングン育ち続け、それに伴って訪れる生き物も移り変わり、自然環境がダイナミックに変化していきます。子どもたちにとっては、多くの生き物に出会える貴重な自然空間です。

これからも、場所を変えながら更新していけば、若返った場所と樹木が成長した場所でさまざまな植物の環境が生まれて、もっとたくさんの生き物がやってくるようになります。

ナラ枯れ^(注1)が急速に進む独歩の森^(注2)も早く若返りに着手して再生し、持続可能な方法で将来につないでいくことが期待されます。

(注1) カシノナガキクイムシによりコナラ等が枯れる被害。

(注2) 境山野緑地にある、江戸時代から続く雑木林。明治の文豪・国木田独歩の作品『武蔵野』にゆかりがあるので、このように呼ばれている。